

CIVITAS FORUM 2014 報告

A Report of Civitas Forum 2014 in Casablanca

稲原 宏*

By Hiroshi INAHARA

1. はじめに

CIVITAS (City VITALity Sustainability) は、欧州委員会のモビリティ・運輸総局が実施する持続可能な都市交通政策プログラムであり、環境や持続可能性といった課題について、交通政策や都市再生の分野で先進的な取り組みを行う都市を EU が支援するものである。CIVITAS は、2002 年の CIVITAS I からはじまり、現在 CIVITAS-Plus II (4 期) (2012 ~ 2016 年) が進行中である。参加都市は、69 に上り、CIVITAS Forum と呼ばれる年 1 回開催の報告会において情報交換を行い、高い効果が得られた施策は CIVITAS 以外の EU 他都市への転用を検討している。本稿では、2014 年 9 月 23 日 ~ 26 日の 4 日間、カサブランカ市（モロッコ）で開催された CIVITAS Forum 2014 についてフォーラムの概要、主な話題等を紹介する。



図-1 CIVITAS 参加都市の一覧¹⁾を基に作成

2. フォーラムの概要と活動内容

CIVITAS Forum2014 は、初日のテクニカルツアーから始まり、全体セッションと分科会で構成されている。当研究所からは環境・資源研究室の稲原が参加し、分科会（ペチャクチャセッション）にて“日立市での鉄道廃線跡地を活用したひたち BRT の取り組み”の紹介を行った。また、ポスターブースには、富山市での LRT とまちづくり、東京都市圏での鉄道と沿線開発、東日本大震災での復興対策、立地適正化計画の概要など日本での取り組みを紹介する展示も実施した。



写真-1 ペチャクチャセッションの様子¹⁾

3. セッションの紹介

開催された分科会のテーマを CIVITAS の戦略テーマに合わせて整理すると表-1 の通りである。全体セッションとも関連性が高い「公共交通を含めた総合交通」や「車に依存しないライフスタイル」に関する取り組みが多く発表された。その中から、電気自動車を活用したまちづくりと人口規模の小さい都市での持続可能なまちづくりについて紹介する。

*環境・資源研究室 研究員

表－1 CIVITAS Forum2014 の発表テーマの整理

＜全体セッション＞		
1: 都市交通とソーシャル・インクルージョン		
2: 都市交通体系における公共交通の役割		
CIVITAS戦略テーマ	分科会テーマ	発表都市
代替燃料、エネルギー効率のよい車両	環境対応車	ボローニャ(イタリア)、 クラゲンフルト(オーストリア)など
公共交通を含めた総合交通	持続可能な都市交通計画	コプリヴニツァ(クロアチア)、 グティニャ(ポーランド)
	公共交通の展望	ポルト(ポルトガル)、 イスタンブール(トルコ)、大西洋エリアなど
	都市交通の維持・管理	カサブランカ(モロッコ)、 スファックス(チュニジア)など
	資金計画	ヨーロツパ、ルーマニア
交通需要マネジメント	渋滞対策	トレビゾ(イタリア)、アーヘン(ドイツ)、 ミラノ(イタリア)、シュトゥットガルト(ドイツ)
モビリティ・マネジメント	行動学に関連したマスタープラン	ザグレブ(クロアチア)、 フンシャル(ポルトガル)など
安全・安心	子ども、高齢者に安全な道路	マラガ(スペイン)、 ザグレブ(クロアチア)など
車に依存しないライフスタイル	住みよい街への新しい都市計画のアプローチ	アメリカ、テルアビブ(イスラエル)、 バルマ(スペインバレーレス諸島)、 マルメ(スウェーデン)
	自転車	レッジ・エミリア(イタリア)など
	シェアリング	ドノスティア/サン・セバスティアン(スペイン)
物流の新しいコンセプト	環境負荷の小さい都市物流	ストックホルム(スウェーデン)、 クロイドン(ロンドン)など
革新的なテレマティクスシステム	オープンデータ	—

(1) クラーゲンフルトでの E-Mobility の活用

オーストリアのクラゲンフルト市は、人口約9万人の都市である。本市では、2010年9月より、全てのモビリティのエネルギーを電気に変えることで環境負荷の小さい交通体系づくりを目指す電気自動車利用促進プロジェクト（CEMOBIL）に取り組んでいる。2015年を目標年次として、1,900tのCO₂削減や1,500台の電気自動車の導入など掲げている。

本プロジェクトでは、E-Mobilityの普及に向けて、充電スタンドの増設やE-Mobilityの駐車場・道路利用の無料化を行うと共に、E-Mobilityがテスト試乗できるように市民には1週間、タクシー会社には3ヶ月のレンタルサービスを実施している。また、路線バスのE-Mobility化・ソーラー船の導入、児童を対象とした電気ゴーカート大会の開催（啓発活動）など複合的に取り組むと共に、WEBサイトに、その日のNOxやPM2.5などの環境データを誰でも確認出来るようにしている。なお、啓発活動は、民間事業者を中心に取り組んでいる。

テスト試乗への参加者に対するアンケートでは、84%がE-Mobilityに満足していると回答している。

我が国では、環境対応車の導入補助によるサポートが中心となっているが、目標達成に向けて、利用機会を設けると共に、行政側での積極的な導入や啓発活動も含めて複合的な取り組みとなっていた。



図－2 CEMOBILで導入を進めているE-Mobility²⁾

(2) 小さな街（コプリヴニツァ）での持続可能な交通計画

コプリヴニツァ市は、クロアチアの北西部にある人口3万人の小都市である。本市では、様々な機能が分散し、交通サービスも乏しいことから、持続可能な交通の実現が求められていた。しかしながら、これまで、計画を立案し、都市交通問題を対処する文化がないこと、大きな理想像を実現するための知識が不足していること、資金もないことから対策が進んでいなかった。そこで、CIVITASのサポートを受けることで、本市の強みと弱みを把握し、交通ビジョンの作成が動き始めた。ビジョンでは、市民の参画を通じた持続可能な都市交通計画に向けて、“電気自動車のシェアリング”、“自転車利用計画”など複数の交通施策による一体的な指針が取りまとめられた。今後は、交通フォーラムを開催し、市民とビジョンの共有を進めるとともに、施策の優先順位の割り当てを行いながら、取り組みを進めていく予定となっている。

我が国でも都市の現状自体把握できていない都市が存在し、同様の課題を抱えている可能性があることから、CIVITASのような組織が存在し、サポートすることの影響の大きさが印象的であった。



写真－2 ビジョン策定の様子¹⁾

4. おわりに

CIVITAS Forum2014 で発表された取り組みは、都市の現況を把握した上で、複数施策を組み合わせること、多様なステークホルダーと一体的に行う事で、効果的に進める事や現況の実態を把握すること事態が困難な都市があり、そのような都市へと先進的な取り組みのノウハウを展開することの重要性が述べられており、我が国にも有益な情報であると感じた。

今回の Forum では、日本から初めて分科会での発表を行う事で、CIVITAS の取り組みを把握するだけでなく、我が国での取り組みを発信することが出来た。今後も継続的に情報交換をすることで、双方の持続可能な都市交通の実現に向けて少しでも尽力できればと思う次第である。

参考文献

- 1) CIVITAS ホームページ (<http://www.civitas.eu>)
- 2) CEMOBIL ホームページ (<http://www.cemobil.eu/index.php?ID1=5&id=5&sprache1=de>)